

スーパーヒーロー映画における女性像の変遷

ーポストフェミニズムと新自由主義の視点からー

SUN Qingyi

本論文はマーベル・コミックスのスーパーヒーロー映画における女性像にフェミニズムの観点から着目し、女性像はどのように変容するのか、そしてそれらの変遷は新自由主義下のポストフェミニズムとどのような関係があるのかを明らかにしようとするものである。

1941 年に *Captain Marvel* (『キャプテン・マーベルの冒険』, 1941) という映画が上映されて以来、スーパーヒーロー映画は世界に登場して何代にもわたって影響し、現在でも最も人気のジャンルの一つとして知られている。このように、各時代を築いてきたスーパーヒーロー映画であるが、先行研究においては基本的に男性ヒーローの分析に集中しており、その一方で、女性ヒーローを対象とした分析は十分に行われていない。しかし、スーパーヒーロー映画における女性像は時代とともに変容を続け、無視できない存在となりつつある。重要な役割を果たした女性が超能力を持つ白人男性ばかりのスーパーヒーロー映画の舞台に登場し、女性の力と魅力を観客に伝えている。このような女性像の更新は、近年関心が高まっているフェミニズム運動と何がしか関係があるのではないだろうか。また、スーパーヒーロー映画における女性ヒーローは、個人の能力に依存し、個人の立身出世を強調する新自由主義とポストフェミニズムの思想を何がしか反映してはいないだろうか。

本稿は、スーパーヒーロー映画における女性像の変遷を、アメリカの女性運動の流れ、とりわけ新自由主義下のポストフェミニズムの視点に沿って分析していく。具体的にはアメリカンコミックスを代表するマーベル・コミックスのスーパーヒーロー映画におけるヒロインおよび女性ヒーローを研究対象として、こうした女性像がどのようなフェミニズムの文脈に導かれて、いかなる表象が行われているか、またそれら女性像の表象が変容する中で、ポストフェミニズムの主張をどのように反映するか否かを考察する。

研究方法としては、まず、量的分析を通じて 2002 年から 2022 年のマーベル映画における女性描写の変容に関する客観的なデータを収集し、様々な変化が起こった大きな時期を特定すると共に、その時々々の女性に関する社会問題と比較しながら分析する。次に、女性ヒーロー単独映画 *Black widow* を分析することを通じて、量的分析で残った課題を考察し、女性像の新動向を明らか

にする。

結論として、スーパーヒーロー映画における女性像は、新自由主義下のポストフェミニズムに関する主張の変化にしたがって常に更新されており、より複雑で矛盾した性質を示しているということが出来る。当初は、男性観客の視線を満たす客体として登場していたが、個人主義や選択の重要性が強調される中で、受動的な存在から能動的な女性へと変容していた。成功した女性たちがフェミニストであることを宣言する中、スーパーヒーロー映画には戦闘に参加する女性スーパーヒーローが増加し、多様性が強調されている。また、#MeToo 運動の影響で女性同士の連帯が描かれるようになり、ポストフェミニズムの影響を受けて感情的な絆が強調されている。しかし、スーパーヒーロー映画における女性キャラクターやプロットは、新自由主義とポストフェミニズム運動によって制限されていると見ることができ、スーパーヒーロー映画における女性同士の絆の意味は変化してはいるが、依然として新自由主義とポストフェミニズムの枠組みの中にあり、矛盾した性質を提示していることが確認できた。

本論文の構成は以下の通りである。

序章では、主に研究背景や目的、本論文の構成について述べた。

第 1 章では、スーパーヒーロー映画における女性像の変遷とその変遷の傾向を明らかにするために、女性像の更新と緊密な関係を持つ当時のアメリカ社会で起こったフェミニズム運動と、それに対する大衆の態度を整理する。さらに、新自由主義とポストフェミニズムの関係について論じ、メディアはフェミニズムの変容に果たした役割を明らかにする。

第 2 章では、スーパーヒーロー映画における女性像の変遷を明らかにするために、スーパーヒーロー映画とそれにおける女性像に関する先行研究を概観して整理する。最後に、分析対象の選定、および分析方法について説明する。

第 3 章では、スーパーヒーロー映画における女性像がいかにして変遷するのか、そして変遷の傾向を、量的分析を行った上で 5 つの種類に分けて整理し、各映画の上映する年代と対照しながら分析する。

第 4 章では、2021 年上映された女性ヒーロー単独映画 **Black Widow** における女性像を分析し、女性ヒーローのアイデンティティ、ジェンダー・ポリティクス、女性同士の絆をキーワードとして新自由主義とポストフェミニズムの視点から考察する。

終章ではスーパーヒーロー映画における女性像の変遷はどのような意義を持つかを総括し、最後に今後の課題を示す。